

# 「中山間地域における集落対策の方向性」で議論 上越市の中山間地域の公益的機能は貨幣評価額で年間1911億円



市議会中山間地対策特別委員会（委員長は私）を16日に開催し、市が進めている「中山間地域における活性化方策調査研究」の中間報告について説明を受け、質疑を行いました。

市はこの日の特別委員会の中で、上越市の中山間地域の公益的機能の貨幣評価額、中山間地域における現況や課題の把握と市の施策の検証の進めてきたモデル集落の取り組みについて説明するとともに、今後の上越市の中山間地域対策の指針となる「上越市の中山間地域における集落対策の方向性」について来月中には正式にまとめる意向であることを明らかにしました。

このうち、「上越市の中山間地域の公益的機能の評価」は、日本学術会議による評価手法を用いて、市内の森林資源はどの程度の公益的機能の有しているか、中山間地域の農地はどの程度の公益的機能の有しているかの2つの視点から行われました。

その結果、市内の森林の公益的機能の貨幣評価額は年間約1725億円、中山間地域で農業が営まれていることにより発揮されている公益的機能は貨幣評価額にして年間約186億円になると試算（別表参照）されました。各委員は、この評価額を聞き、改めて中山間地域を守ることにの大切さを意識しました。

「上越市の中山間地域における集落対策の方向性」についての骨子案では、「今後市内の小規模・高齢化した中山間集落の諸課題を市民共通の課題として捉え、集落を再生・活性化していくための課題として」、①住民が主体となつた集落再生や地域づくりをいかに展開していくか、②市民や団体など市全体で集落を支えていく仕組みをいかに構築していくか、③集落再生に向けた交流促進や居住環境の整備を今後どのように展開していくか、④どのように集落の実情を正確に捉え必要な対策や支援を講じていくか、の4つに集約しました。

そのうえで、こうした課題に依じて、市内の中山間地域において今後、集落対策を推進するための方向性として、

①集落の自発的な取組の推進、②集落を支える仕組みの構築、③都市との交流の促進に向けた環境づくり、④安心・安全な暮らしを支える仕組みづくり、⑤集落のモニタリング体制の充実を提起しています。

説明を受けた各委員からは、「上越市の中山間地域の公益的機能の貨幣評価額を明らかにし

たのは初めてのことだ。とてもいいことなので、市民にわかりやすく公表してほしい」「人が関わっているなかで公益的機能が維持される。そうした視点で対策を」「行政の役割は（集落を担う）人をいかに確保し、育てるかに尽きる。中心的な課題に入れてほしい」「集落の自発的な取り組みを重視しているのはいいことだ。地域通貨をどんなふう考えているのか」などの意見や質問が出ました。

説明を受けた事項については資料が委員にわたったのが遅かったこともあり、特別委員会では来月8日に改めて、「上越市の中山間地域における集落対策の方向性」の骨子案について質疑を行うことにしています。

機能の種類	機能の概要	上越市評価額
●洪水緩和機能	下流の河川に流出する水量を緩和	約160億円/年
●水資源涵養機能	孔隙に富んだ土壌が降水を浸透・保水	約270億円/年
●水質浄化機能	雨水中の不純物を吸着して水質を改善	約447億円/年
●表層崩壊防止機能	森林の根系や樹木により表層崩壊を軽減	約184億円/年
●表層侵食防止機能	地表を覆う植生が表層の侵食を抑制	約634億円/年
●CO2吸収機能	森林が二酸化炭素を吸収	約30億円/年
森林資源からもたらされる公益的機能の評価額		約1,725億円/年

機能の種類	機能の概要	上越市評価額
●洪水防止機能	水田や畑は多くの雨水を一時貯留する	約80.1億円/年
●水資源かん養機能	一時貯留量の多くが地下水として涵養される	約37.6億円/年
	涵養された地下水を使う方が上水道を使うより割安	約1.1億円/年
●土壌浸食防止機能	農地は裸地より土壌浸食防止機能が高い	約5.7億円/年
●土砂崩壊防止機能	水田の耕作により土砂崩壊の発生を1/4に抑制	-
●食料供給機能	中山間地域産出分だけで市内自給率約38%	約61.5億円/年
中山間地域での農業の営みにより発揮される公益的機能の評価額		約186億円/年

# 春よ来い 第二三六回 雪を楽しむ

一二月の、ある寒い日の午前、「しんぶん赤旗」日曜版の配達で動き回っていた時のことでした。吉川区から柿崎区へ向かう途中、お寺のご住職のSさんが車庫の脇からひよいと出てこられたので、びっくりしました。

少し間をおいて私の方から「歩いてこられたんですか」と声をかけますと、Sさんははつきりとした口調で、「はい」と言われました。たぶん、車庫脇の広い土地や大出口川の土手などの雪の上を歩いてこられたのでしょうか。誰が雪の上を歩いて楽しんでいてもおかしくはないのですが、お寺さんも「凍み渡り」をされたのだと思うと、なぜかうれしくなりました。

私たちのところでは、前日の夜からこの日の朝にかけて急に冷え込みました。一二月から一気に二月になったのではないかと思うほどでした。わが家の周辺では積雪は六〇センチほどでしたが、この雪がしっかりと固まりました。じつは、私もこの日、雪の上を歩いてきたのです。

ガリツと音がする。長靴が路面にくっつきそうになる。長年にわたり培ってきた雪に対する感覚から、道をちよつと歩くだけで「凍み渡り」が出来るかどうかの判断はできます。私は牛舎脇の畑の雪の上にひよいと上がり、榛の木の方に行ったり来たりしながら歩き、楽しみました。

ここまでなら、「おれだってやってるよ」という人が大勢おられるだろうと思いますが、私の場合、それだけで終わらなくなりました。今冬はこの一二月の「凍み渡り」を楽しめたことがきっかけとなって、様々な雪の楽しみ方をしていきます。

例えば、年始の挨拶で尾神の親戚へ行った帰り道のこと、道路沿いの水路が雪に覆われてトンネルになっていました。そのトンネルにカメラを向けると、水路が暗くなっている、雪の中にほつぺたのふくらんだ少女が立っているように見えたのです。

「少女」はどこかで見たことがあると思ったら、不二家のミルクキーの宣伝でおなじみのペコちゃんでした。雪の白と水路の黒が作りだした光景はじつに新鮮で、写真に撮って全国に発信しました。

今冬は雪の降り方がいつもと違います。けつこう晴れ間もありますし、雨が降ることもあります。そのせいもあるのでしょうか、雪が見せてくれる表情の面白さにも目が行くようになりました。

先日は朝から靄（もや）が立ち込めました。わが家の牛舎から隣の集落へ行く途中にある田んぼや排水路もこれまでと違って見えませんでした。白い平原のなかに排水路だけが遠くまで続いていて、排水路の先は靄でかすんでいました。手前から伸びる排水路は細長い三角形になって見えます。そして、排水路に沿ってキツネらしきものの足跡がずつとついていました。おそらく、この動物は排水路を飛び越したくても飛び越える自信が無くて慎重な判断をしたに違いありません。この情景もカメラに収め、発信しました。

街灯の光によって、雪も表情が変わります。たいへんな吹雪になった日の夕方、バスで仕事から帰ってくる妻を迎えに出ました。その時、吉川橋を見たら、街灯の光が吹雪と一体になり、暖かく柔らかな温暖色を生み出していることに気づきました。何か幸せなドラマが生まれそうな素敵な空間でした。雪の季節はあとふた月。次の雪との新たな出会いは何かと、わくわくしています。

## 大山温泉あさひ荘は 7月1日再開へ

上越市は11日、大島区田麦にある大山温泉あさひ荘の指定管理者の募集をスタートさせました。応募資格は、各施設の募集条件を満たす事業者、団体。希望者は指定管理者指定

申請書に必要事項を記入し、必要書類を添付して平成25年1月31日（木曜日）午後5時までに担当課（大島区総合事務所）へ申し込んでほしいとのことです。

市の募集要項によりますと、指定期間は平成25年7月1日から平成28年3月31日までの予定（2年9か月間）となっています。したがって、市長

の年頭の記者会見では、早ければ5月の連休明けにも再開したいとのことでしたが、最終的には7月1日再開の方針で決定したことになります。

### 消防本部を訪問し意見交換、視察も

日本共産党議員団は16日、災害対策の最前線で活躍している上越地域消防事務組合本部を訪れ、小池義徳消防長ら幹部職員と災害対策について意見交換をしました。また、指令室や各種消防車両なども見せていただきました。

意見交換では、「どんな災害が発生するかわからない。

マニュアルのない訓練を重ね、突発的な災害に対応できるようにすべきだ」「東日本大震災以降、津波災害、原子力災害対策の強化が求められている」など意見を出し合いました。

日本共産党議員団が同組合を訪問したのは初めてのことです。



酸素吸入マスクを着用した私

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	1月9日(水)	1月16日(水)
上越南消防署	0.030	0.040
上越北消防署	0.047	0.050
新井消防署	0.040	0.053
頸北消防署	0.063	0.056
頸南消防署	0.040	0.047
東頸消防署	0.050	0.040
高士分遣所	0.050	0.053
名立分遣所	0.050	0.050